

(2) 吹管その他の機器の接続

⚠ 警告

- * ゴムホースの接続部はホースバンドを用いて確実に締め付けてください。
- * 調整器とゴムホース継手に接続は、ガス漏れないように確実に締め付けてください。

- ①ホースとホース継手は、接続部からガスが漏れないようにホースバンドで確実に締め付けてください。
 - ②調整器の出口（ホース継ぎ手台）と使用する切断器または加熱器とゴムホースを接続するためのゴムホース継手は、スパナ等の工具を用いてガス漏れがないよう確実に締め付けてください。
 - ③当製品に接続するゴムホースは日本工業規格JIS K 6333（溶断用ゴムホース）に適合したゴムホースを使用してください。
当製品に接続するゴムホースはオレンジ系の色です。
 - ④ワンタッチ継手の場合もしっかりと接続してください。
- ## (3) 圧力セット

⚠ 警告

容器のバルブを開くとき、身体は調整器に対して斜め前に位置し、圧力計の正面には絶対に立たないでください。

- ①圧力調整ハンドルを左右に回し空回りすることで、ゆるんでいる状態を必ず確認してください。
- ②調整器、ゴムホース、切断器または加熱器が確実に接続されているかを確認してください。
- ③切断器または加熱器のすべてのバルブが閉じられていることを確認してください。

⚠ 警告

- * 調整ハンドルがゆるんでいる状態であるにもかかわらず、圧力計の指針が上がっていく場合があります。これは出流れという非常に危険な故障です。ただちに、調整器元弁を閉じ、調整器を取り外し、すみやかに当社または当社サービス店にご連絡ください。
- * 点火した切断器または加熱器を持ったまま圧力調整ハンドルまたは調整器元弁の操作を行ったりしないでください。炎が思わぬ方向に向き、容器を加熱したり、周囲の人間に火傷を負わず危険性があります。

- ④調整器の圧力調整ハンドルがゆるんでいることを確認した後、容器バルブを開けてください。
- ⑤容器バルブを開けた後、圧力調整ハンドルがゆるんでいる状態の時に圧力計の指針が上がらないことで当製品が出流れを起こしていないことを確認してください。
- ⑥調整器の圧力調整ハンドルを右に回してゆくと、圧力計の指針が上がっていきます。ご希望の圧力の位置に指針がとまるように調整ハンドルを少しづつまわしてください。
ご希望の圧力の位置よりも指針が高い圧力の位置でとまった場合、圧力調整ハンドルをゆるんだ状態にした後、吹管のLPGバルブを少し開け、LPGを逃がし、指針が0になるのを確認してください。
吹管のLPGバルブを閉じてから再度、圧力のセットをしなおしてください。

(4) 漏れチェック

⚠ 警告

- * 各機器をガス漏れ状態のまま使用しますと、重大な人身事故が起こることがあります。特に、調整器のカバー、圧力計等ねじこみ部および乾式安全器からの漏れが発見されたら、ただちに使用を中止し、すみやかに弊社または弊社サービス店にご連絡ください。

- ①調整器および各接続部に検知液（石けん水等）を塗布し、漏れが無いことを確認してください。
漏れが発見されたら、締付部の増し締め等を行い、漏れの無いことを確認してから使用してください。
- ②使用中、休憩その他のためにガスの使用を一時中止する時は、容器のバルブを閉じ、切断器または加熱器及びゴムホースのガス抜きをした後、溶接器などのすべてのバルブを閉じ、圧力調整ハンドルをゆるんだ状態にしてください。

(5) 作業終了

- ①容器バルブを閉じてください。
 - ②切断器または加熱器のLPGのガス抜きを行う前に、酸素のガス抜きを行ってください。
この手順は、それらの取扱説明書に従ってください。
 - ③通風の良い場所で、切断器または加熱器のLPGバルブを開き、圧力計の指針が0になるまでLPGガスを放出してください。
 - ④酸素及びLPGのガス抜き後、切断器または加熱器のすべてのバルブは閉じてください。
 - ⑤調整ハンドルを左に軽くなるまで回してゆるんだ状態にして下さい。
- ## (6) 保管
- ①長期間、使用しない場合は、調整器を容器から外して保管してください。
 - ②保管中は、調整器にゴミ、埃等が入らないような場所で保管してください。

保守点検

⚠ 注意

安全および性能維持のため、保守点検は必ず行ってください。保守点検を怠りますと重大な人身事故が起こることがあります。

- (1) 日常点検
原則として、以下の項目について1日1回作業時には必ず行ってください。
 - ①出流れ（圧力セットの項を参照）
 - ②漏れチェック（漏れチェックの項を参照）
- (2) 毎年の自主定期検査
調整器はダイヤフラム、バルブ等にゴム製品が使用されています。ゴム製品は長い間には劣化が起こります。調整器の作業環境、作業頻度に応じて、1年を目安として定期点検を行ってください。
- (3) メーカー定期点検
製造から7年を超えて使用する場合はメーカーまたは、メーカーが指定する事業所（者）による点検を受けてください。
詳しくは（独法）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所が発行した「ガス切断・ガス溶接等の作業安全技術指針（JNIOOSH-TR-48:2017）」をご参照ください。

修理

⚠ 危険

- * 下記の故障が確認された場合は、ただちに、弊社または弊社販売サービス店にご連絡ください。
- * 機器は使用者が分解修理・改造等を行うと重大な人身事故発生の原因になりますので絶対にしないようにお願いいたします。

- (1) 出流れ。
- (2) 入口圧力が供給され、調整器ハンドルを操作したにもかかわらず、低圧圧力計が上がらない。
- (3) 圧力調整ができない。
- (4) ガスを流すと「キーン」という音がする。
- (5) 調整器からガスが漏れている。
- (6) 圧力計が破損している。

連絡先

弊社製品についてご要望、その他お困りの点が
ありましたら次の所へご連絡ください。



株式会社 千代田精機

〒653-0022 神戸市長田区東尻池町7丁目9番21号

TEL (078) 681-8844(代) FAX (078) 681-8849

URL: <http://www.chiyoda-seiki.co.jp>

本社 営業部 業務課

RS-023-TI-1

取扱説明書

LP2溶断器用LPG圧力調整器 RP-70型

この度はRP-70型圧力調整器をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書をご熟読のうえ、正しくご使用ください。

⚠ 重要

取扱説明書をよく読み理解してから操作してください。
本取扱説明書に従わない不適切な操作や整備は生命や身体に重大な被害が発生する危険性があります。
本取扱説明書は常に製品のそばに置いて何時でも読めるようにしてください。
本取扱説明書以外にご使用になる切断器または加熱器の取扱説明書も合わせてお読みください。



株式会社 千代田精機

はじめに

本取扱説明書は、LPG用圧力調整器（以下調整器という）を安全に使用していただくための説明書です。当製品はガス容器に蓄えられたLPGを金属の切断及び加熱作業に適した圧力に減圧する調整器です。当製品をご使用していただく前に必ず本取扱説明書を読み、十分ご理解された上でご使用くださいますようお願い申し上げます。

また、ガス溶断器の取り扱いおよび保守管理においては、労働安全衛生総合研究所発行の「ガス切断・ガス溶接等の作業安全技術指針（NIOSH-TR-48:2017）」も合わせてご参照ください。本取扱説明書に従わなかった場合、重大な人身事故に結びつくことがありますのでご注意ください。

本取扱説明書は、当製品を安全にご使用いただくために、安全についての表示を次のように使い分けてあります。

⚠ 危険：回避できなかった場合、死亡または重傷を負うことにある切迫した危険状態となる場合の注意事項に用いております。

⚠ 警告：回避できなかった場合、死亡または重傷を負う可能性がある危険状態の場合の注意事項に用いております。

⚠ 注意：回避できなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負う可能性がある危険状態の場合、および、物的損害の発生が予測されるような種類の危険状態になる場合の注意事項に用いております。

⚠ 重要：当製品を取り扱う上で、法的規制等の当然守るべき基本的な事項に用いております。

⚠ 重要

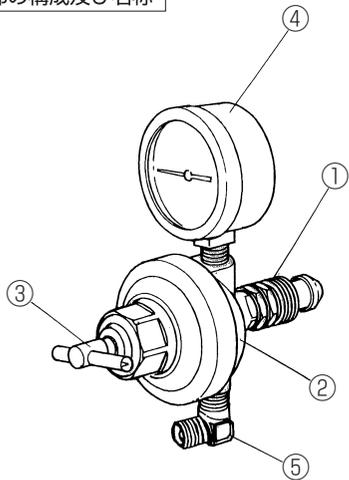
可燃性ガス及び酸素を用いて金属の溶接、切断または加熱作業を行う場合は、労働安全衛生規則にもとづき下記1～3のいずれかの資格が必要です。

資格を有しないものは、当製品を使用してはいけません。

労働安全衛生規則 第41条（就業制限についての資格）

1. ガス溶接作業主任者免許を受けた者
2. ガス溶接技能講習を終了した者
3. その他厚生労働大臣が定める者

各部の構成及び名称



番号	名称
1	容器取付ナット
2	本体
3	圧力調整ハンドル
4	圧力計
5	L型継手

※ホース口はオプションです

安全に使用していただくために

⚠ 危険

当製品を用いて行う金属の切断及び加熱の作業において、人身事故や火災等の危険を減少するための安全予防措置として以下1～12項の事柄を遵守してください。

1. 作業場所の換気
作業場所は良好な換気を行ってください。通風換気の悪い場所での切断、加熱作業は酸素不足になり酸欠の危険性があり、切断作業は酸素過剰になり火災の危険性があります。
2. 作業場所の整理整頓
火口の火災、切断の火花等で着火を起こす恐れのある可燃物が周囲にある場合は、5m以上遠ざけてください。
高所で作業を行う場合、可燃物に火花がかからないよう遠く離れた場所に置か、遮断物で保護してください。
3. 眼鏡、作業服の着用
火花及び光から目を保護するために、ガス溶接用保護眼鏡を必ず着用してください。難燃性の作業服、手袋を着用してください。油が付着した作業服、手袋は着用しないでください。
4. 損傷機器の使用禁止
損傷していたり、ガス漏れの疑いがある機器は使用しないでください。また磨耗、ひび割れ等損傷したホースは交換してください。
5. ガスの選定
当製品は、LPG以外には使用しないでください。
6. 推奨圧力での使用
当製品は、使用圧力範囲内で使用してください。使用圧力範囲以外の圧力での使用は、当製品及びこれに接続する機器の損傷あるいは当製品の性能の劣化につながります。
7. 接続部気密の確認
接続部から漏れがあってはいけません。またねじ部やホース等の接続部に大きな力を加えてはいけません。接続部漏れ検査にはマッチ等裸火を使用してはいけません。気密の確認には検知液（石けん水等）を用いてください。
8. ガス置換の実施
火口に点火する前に酸素、LPGの順で放出してください。これはホース等に入っている可能性のある混合ガスを酸素及びLPGに置き換えるためです。混合ガスが残っていると逆火が発生する危険があります。
この手順は、ご使用になる切断器または加熱器の取扱説明書に従ってください。
9. 機器の取り扱い上の注意
機器は慎重に取り扱ってください。切断器または加熱器はハンマーとして使用したり製品のスラグ落としに使用してはいけません。ゴムホースは折り曲げたりつぶしたりしてはいけません。
10. 人体または衣服へ酸素を吹き付けの禁止
濃度の高い酸素は、燃焼を助け発火しやすくなります。
11. 使用後のガス抜き
金属の切断及び加熱作業終了時は、容器バルブを閉めてください。その後風通しの良いところで酸素、LPGの両方のホースを別々に空になるようガス抜きをしてください。
この手順は、ご使用になる切断器または加熱器の取扱説明書に従ってください。
12. 逆火防止装置の取付
逆火防止装置（乾式安全器）を取付けた場合、取扱いはご使用になる乾式安全器の取扱説明書に従ってください。

仕様

適用ガス	LPG用圧力調整器
適用ガス	LPG
最高入口圧力	1.8MPa（但し+40℃）
使用圧力	0.02～0.15MPa
流量	4m ³ /h（標準状態）（使用圧力0.05MPa）
圧力計	0.2MPa（2次側）
入口接続	容器取付ナット
出口接続	M16×1.5左雄ネジ
質量	750g

※ホース口はオプションです

表示

本製品には、下記の表示をしてあります。

(1) 製造業者：「型式等銘板」に記載、本体、カバーに表示。

1. 型式等銘板  千代田精機
2. 本体、カバー  CHIYODA SEIKI CO.,LTD.

(2) 種類：「型式等銘板」に記載。 “LP2”

(3) 製造年月：本体裏面に刻印（例）2110 → 2021年10月製造
製造月（2桁表示）
製造年（西暦の下2桁）

(4) 使用ガス：「型式等銘板」に記載。 “プロパン”

※「型式等銘板」はカバー上部に貼付てあります。

操作

⚠ 警告

- * 容器を移動させるときは調整器をつけたままで移動させないでください。
- * 容器は、直射日光等により温度が40℃以上にならないように設置してください。
- * 圧力調整は必ず調整器で行い、容器バルブで調整しないでください。
- * 調整器に衝撃を与えないように、大切に扱ってください。

操作は必ず次の手順にしたがって行ってください。手順にしたがわない場合は重大な人身事故が起こることがあります。

(1) LPG容器への取付

- ①容器がしっかりと固定されていることを確認してください。
- ②容器へ調整器を取り付ける前に、取付部の埃、ゴミ、水分等をきれいなウエスで除去してください。
- ③入口継手が正常であることを確認してください。

⚠ 警告

- * 入口継手が変形して、調整器が容器バルブに取り付けにくい時は、無理に取り付けしないでください。無理な取り付けはガス漏れを起こし重大な人身事故が起こります。
- * 調整器の調整ハンドルは、ゆるんでいる状態であることを確認してください。ハンドルがゆるんでいる状態でないと、容器バルブを開いた時に、調整器に過大な圧力がかかり、重大な人身事故が起こる可能性があります。

④取付ナットを容器弁のねじに手で軽く左に回して2～3回ねじこんでください。

この時、圧力計が見やすい位置になるように取り付けてください。

⑤モンキーレンチまたはスパナを用いて、取付ナットを締め付けてください。